

口腔ケアから口腔衛生管理へ

— 月 1 回の口腔ケアに意味はあるのか？

頻度だけでは語れない歯科の役割 —

日時 11 月 8 日（日）10：00～12：00

会場 松江市・サンラポーむらくも（ウェブ併用）

講師 市村 和大 先生（茨城県土浦市・市村歯科医院 副院長）

2009 年日本大学歯学部卒業、翌年に同摂食機能療法学講座入局、2012 年から市村歯科医院勤務（日本口腔リハビリテーション学会認定研修施設）【資格】茨城県立医療大学認定看護師教育課程「摂食嚥下障害看護」非常勤講師 / 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 評議員、認定士 / 日本口腔リハビリテーション学会 代議員、認定医および指導医 / 日本老年歯科医学会 認定医および専門医



《抄録》 専門的な口腔ケアは、口腔内の細菌数を減少させ、誤嚥性肺炎の予防につなげるためにも、一定の頻度で継続することが重要とされています。しかし実際の臨床では、患者・家族の希望や生活環境などから、月 1 回、あるいは数か月に 1 回の介入となることも少なくありません。では、十分な頻度で介入できない場合、歯科の関わりに意味はないのでしょうか。

口腔ケアは、単に口腔内を清掃することだけではありません。栄養状態、服薬、嚥下機能、全身状態、活動性、疾患の進行、介護環境など、患者を取り巻く様々な変化を捉え、その時々

の状態に応じた支援を行う「口腔衛生管理」という視点が重要です。
本講演では、口腔ケアの頻度に関する知見を踏まえ、限られた診療時間・訪問頻度の中で、私たち歯科が何を見て、何を支援できるのかを考えます。頻度の多寡だけで介入の価値を判断するのではなく、**「その一回で何ができるか」「患者とどう継続して関わるか」**という視点から、日常臨床に活かせる口腔衛生管理について考察します。

「口腔内を診る」から「口腔を通して患者さんを診る」へ。本講演が、明日からの臨床の一助になれば幸いです。（講師）

◇参加申込方法◇

ウェブ参加は協会 HP（行事案内）または QR コードから、
現地参加は FAX でお申し込みください。



《現地参加申込書》ファックスにてお申し込みください

参加人数⇒（ ）人

医療機関名

電話番号（ ）

送信先⇒協会ファックス（0852）27-5724